

ト 卷三〇二 卷前三〇十五
 ナ 卷三〇九 卷前三〇六 卷九
 マリ 卷三〇七
 ヌ 卷三〇四

十二
 十三
 十四

愛する者よ惡に效ふ勿れ即ち善に效へ善を行ふ者ハ神より出惡を行ふ者
 ハ未だ神を見ざる也トマテラトラトハ衆人ト眞理トに證をせらる我儕も證
 をす我儕の證の眞實なるを爾知りト我亦幾多の事を爾に書贈らん是爲也
 も筆と墨とを以て書おくるを欲すト速かに爾を見テ口を費へ語らん是
 を望む願くハ爾安かれ多の友ならざるの安を問ひ請ふらん我に代て諸友お
 のしに安を問

新約全書使徒約翰第三書 終

ト 卷十五〇三 卷一〇一

ハ 卷前二五

二
 三

イエスキリストの僕エズ即ちヤコブの兄弟書を召れたる者すなはち父な
 る神に愛せられ且イエスキリストの爲に守らる衆人に贈る願くハ爾
 曹に慈恵と平康と仁愛の増んことを○愛する者よ我心を熱して共に與
 る所の救の事を爾曹に書おくらんと思わたりしが今なんぢらに書を贈り
 て聖徒が一たび傳られし信仰の道の爲に力を盡して戰はん事を爾曹に勸
 ざるを得ざるハ神を敬はず我儕の神の恩を易て色慾を放縱にするの緣
 となし惟一の主なる神と我儕の主イエスキリストを棄るもの數人爾に教
 會に入ればなり彼等が此審判を受るとお定られたる事ハ昔より預じめ
 録されたりトなんぢら素より知り知る事なれど我なほ爾曹に憶起させんとす
 る事ハ主の民をエジプトの地より救出し給へばち信せざる者を滅ばし給
 ひし事と己が本位を守らずして其住る所を離れたる天使を限なく繋て
 大なる日は審判まで幽暗れ中に守り置たまひし事とトプロムゴモラ及び

ト 卷十五〇三 卷一〇一
 ハ 卷前二五
 ニ 卷二十
 ヌ 卷一〇六
 マ 卷二〇四 卷二〇一
 ト 卷前七〇一 卷七二
 ナ 卷二〇七
 ヌ 卷二〇四 卷九〇
 マ 卷二〇六

四
 五
 六
 七

ル	脚註三〇五至八條	六
ラ	ローマ書三〇五至二一節十	九
ニカ	第二〇二	十
ヌ	第二〇二	十一
シ	第二〇二	十二
ツ	第二〇二	十三
ハ	第五七五	十四
サ	第二〇二	十五
セ	第二〇二	十六
テ	第二〇二	十七
ト	第二〇二	十八
チ	第二〇二	十九
リ	第二〇二	二十
ニ	第二〇二	二十一
ノ	第二〇二	二十二

其比隣は邑かれらと同く姦淫をなし且男色を行ふにより限なく火の罰を受て鑑戒に立られし事となり八ては夢みる者も亦肉體を汚し主たる者を藐忽し尊者を謗れり九つれ天使の長ミカエル惡魔とモ一七は扇を争ひ論せしとき彼な城之を謗りて訴へざりき惟主ならんちを責べしと曰り十然るに彼等の知ざる所の事を謗れり其本性なる所の無知識は知るところと同し彼等の之を以て己を亡せり十一禍なる故彼等のカインは途にゆき利の爲にバラムは迷謬に馳せたり十二逆ひし如し及びり十三彼等の爾曹は愛を筵席の譬なり憚る所なく同に其筵席に與りて自己を養へり彼等の風に逐るる雨なき雲枯て再かれ根を拔るる果のなき秋の樹の木の穢を湧出す十四海は猛浪道をはなれたる星なり之が爲に黑暗を限なく留置られたり十五アムより七代に當れるエノク此輩は事を預言して曰けるハ禪よ主其聖萬軍と僮に來りて衆人を騎き凡て神を敬りざる者其神を敬らずして行ひし悪行を神を敬らざる罪人は主に逆ひて諸れる諸は惡言を責給ふべしと

ホ	第二〇二	十六
ヘ	第二〇二	十七
ニ	第二〇二	十八
ハ	第二〇二	十九
ニ	第二〇二	二十
三	第二〇二	二十一
三	第二〇二	二十二
三	第二〇二	二十三
二	第二〇二	二十四
二	第二〇二	二十五

此輩の怨言もは足とを知らざる者おられれば怒に從ひて行き其口は誇ることを語り利の爲に人に陥ふ者あり十七愛する者よ爾曹わが主イエスキリストの使徒等ば曩に語りし言を憶起すべし十八即ち爾曹に語ていふ末期に讖讒者おこり己が横逆なる怒に徒ひて行んば十九彼等ハ自ら區別を亦する者また肉に屬する者にして靈の赤き者なり二十愛する者よ爾曹りは徳を至潔き信仰れ上に建て聖靈に感じて祈り三自己を守りて神の愛の中に居われり三三主イエスキリストの永生を賜ふ其勢恤を待べし三三彼等ばらうも或者をバ論じて口を噤しめ三或者を火より取出して救ひ或者をバ畏懼を以て憐むべし其惡の肉は慾に染たる灰塵でも惡むて之をせよ三三我儕の救主ある獨一の神すなりち爾曹を贖かせしと保り爾曹をして汚さく敬びて其榮光の前に立てを得しむる者の始の世の始より今また後も世々永遠われらの主イエスキリストに由て榮光と威光と大能と權を有ら給ふなりと